

コイヘルペスウイルス（KHV）病について

高知県水産業振興課

1 コイヘルペスウイルス病とは

コイヘルペスウイルス（KHV）がコイに感染することによって発症する病気で、強い感染力を持ちます。日本では2003年の秋、霞ヶ浦で初めて確認されました。

高知県では、2005年の9月に南国市の個人池で始めて確認されて以降、国分川水系、鏡川水系、下田川水系、物部川水系（杉田ダムより下流）、香宗川、十市川、新川川水系、仁淀川水系（大渡ダムより下流）、伊与木川水系及び渡川（四万十川）水系の、計10河川・水系で発生しています。

・感受性魚種

KHVはコイ（マゴイ及びニシキゴイ）にしか感染しません。コイ以外の魚や人への感染はありません。

2 発生しやすい水温と潜伏期間

水温は18°C～25°Cのときに発病しやすく、初夏と秋に発生のピークが見られます。感染してから発病するまでの潜伏期間は2～3週間とされています。

3 症状

行動緩慢、摂餌不良になりますが、目立った外部症状は少なく、鰓の退色やびらんなどが認められ、死亡率が非常に高い病気です。死亡魚は、痩せこけて目が落ちくぼんだ状態になることが多いです。

(1) KHVは治るのか？

KHVに感染しても、全てのコイが死ぬわけではありません。ウイルスの量によっては殆ど死なないこともあります。また、黒ゴイよりもニシキゴイの方が KHV に対して弱く、死にやすいようです。発症しても、30°C以上に水温を上げて1週間以上飼育すれば治癒することが明らかになっていますが、一度感染して治癒したコイは、健康であってもウイルスを保有している可能性が高く、再発したり他のコイへ伝染する恐れがありますので、観賞用のコイ入手する際には、飼育履歴や移動履歴をよくご確認くださいようお願いいたします。

(2) あなたのコイを KHV から守るために

池や川で捕まえたコイを持ち運ぶのはやめましょう（KHVの発生した水域では内水面漁場管理委員会指示で生きたままコイを持ち出すことは禁止されています）。

水温の低いときにコイを買ったり移動したりするのはやめましょう。KHVを持っていても水温が低いと発症しません。知らずにウイルスを持ち込む可能性があります。

インターネットなどでコイを買うのはおすすめできません。事実最近はインターネットでコイを買って KHV を持ち込む例が増えています。コイを購入するときは信頼できる業者のところで自分の目で見て選んでください。

新たにコイを持ち込むときは、できれば他のコイと一緒にせず、別の池や水槽で20°C以上で2週間以上飼育し、健康なのを確かめることをお勧めします。